



障がい者とボランティア学習会

減災のためにできること

3月22日 主催：くらしネット「福祉」 67人参加

障がい者には、さらに困難な状況に、大震災のとき、とりわけ障がいを持っている人は、情報不足や意思疎通しにくい、困難な状況がありました。例えば、震災被害により建物や道路など周りの状況が変わってしまったと、視覚障がい者は危なくて避難できません。また、避難所など知らない場所では状況が分からず、文字情報だけの連絡では分かりません。また緊急時には、音での情報（緊急放送など）のみに頼りがちなため、聴覚障がい

者には情報が不足します。混乱の中では行政による、障がい者など要支援者の発見が遅れて、目配りや対応が後手になりました。

自助・共助を大切に

大地震のとき、救急車も消防車も足りなくなり道が塞がったりするため、行政の手が届くまでに一定期間が必要で、阪神大震災のとき倒壊家屋から助け出された人の7割が、すぐ近くにいる家族や近所の方に助けられています。まずは、迷わず行動できる、

映像で見せていただいた、高層住宅のゆれ・家具の転倒を見て怖いと思いました。狭い家の中の、寝ている場所のまわりを見直したいと思います。

おおさか防災ネット ホームページ
<http://www.cds.osaka-bousai.net/pref/index.html>

視覚・聴覚障がいを持っている方は、一般の準備品以外にも、例えば下記のようなことにも注意したほうが良いかもしれません。

- ①メガネ、白杖、点字盤、音声時計や触知式時計、補聴器および専用電池を身近なところへ置き、必要であれば非常用袋にも入れる。
- ②緊急時の連絡先点字メモ、メモ用録音機、笛やブザーなど、自分が助けを求めたり、安全を確保するために必要な物。雨天時や夜間も使え繰返し使用できるメモや携帯用ホワイトボードを用意したり身につける。

- ③（視覚障がいの方の避難経路確認と安全のため）家の中の配置を常に一定にし、家の中や玄関付近の整理整頓をする。
- ④（聴覚障がいの方が異変に気づかないときのため）家で一人きりの場合や、夜間の睡眠中の情報伝達をどうするか家族や近隣の人たちと決めておく。

その他にも、必要と思われるものを考えて準備しましょう。



組合員活動は「食」「平和」「環境」「くらし」の4つの柱にそって各地域で多彩な取り組みが行われています。

17年前の阪神淡路大震災・昨年の東日本大震災と、大きな被害がありました。今、近畿地方でも、東南海地震や上町断層での地震が心配されています。障がい者のみならず、高齢者や乳幼児などの弱者、また健康者にとっても備えをすることは大切です。大阪府危機管理室防災アドバイザーの藤居さん・大阪府生協連の小山さんを講師にお招きし、学習会を行いました。



藤居さん



小山さん

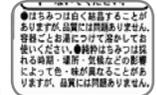
自分一人で考えるのではなく、地域の人たちと一緒に考えてみます。避難所までの経路などを地図でたどりながらシミュレーション。危険なところはなにか実地で確認します。自分たちの町について、防災の観点から見えてみましよう。支援が必要な人に、どんな支援ができるか考えてみましょう。障がい者や高齢者、乳幼児などの弱者が大丈夫な状況こそ、町のだれでもが安心な状況です。



商品検査室だより 3月度

お申し出 はちみつ

カビみたいな白い塊や、黒い浮遊物が見えます。これは何ですか？



商品の裏面に記載しています

検査室からのお答え

ご不快な思いをおかけし申し訳ありません。「カビ」のように見えた白い塊は、はちみつが結晶化したものです。はちみつは、80gの糖分が20gの水分に溶け込んでいる状態です。主成分の「糖」のブドウ糖が飽和状態となると、時間とともに結晶化が始まりますが、純度が高いため糖本来の白い色に見えます。

黒い浮遊物は、細かなメッシュで取りきれない天然物のはちみつに含まれる微細な花粉や植物組織などの交雑物です。なお、はちみつは水分が低いので、通常の保管状態ならカビや微生物は生育できませんのでご安心ください。

商品の裏面には注意表示をさせていただいておりますが、今後も組合員さんにわかりやすくお伝えするよう努めてまいります。

■3月度のコメント■

- ★3月度は1,044件の検査（昨年862件）と商品の相談受付は429件（昨年454件）でした。
- ★微生物検査・理化学（残留農薬・食品添加物）検査とも、商品回収・人体危害にかかわる不適合はありませんでした。
- ★微生物検査の抜取検査で新規事前検査で2品、抜取検査で2品、残留農薬検査で1品再検査を要するものがあり、製造者へ改善調査・再検査実施を要請しました。
- ★残留放射線検査で生鮮・一般食品48品行い、すべて検出せず（検出限界は各20ベクレル/kg）でした。
- ★腹痛下痢、スキントラブルなどでの、同一商品の複数発生はありませんでした。

〈商品の相談受付状況〉

主なお申し出内容（昨年度）	
人体有症	7件（3件）
異物混入	51件（52件）
異味異臭	30件（35件）
他意見・質問など	341件（364件）
合計	429件（454件）

理事会報告 2011年度 第10回 2月3日

（単位：千円）

事業概況	1 月 度			累計（4月～1月）		
	実績	計画比%	前年比%	実績	計画比%	前年比%
供給高	4,983,661	102.9	100.8	42,067,027	100.3	101.0
供給剰余金	1,325,669	103.8	100.5	10,733,810	100.5	101.7
福祉剰余金	2,493	78.4	119.4	29,962	103.3	175.2
事業総剰余金	1,428,115	103.5	101.0	11,751,694	100.6	102.0
事業経費	1,031,099	98.8	98.3	10,729,160	98.8	99.4
事業剰余金	397,015	118.1	108.6	1,022,534	124.0	141.9
経常剰余金	397,674	116.3	106.2	1,080,195	138.1	134.4

おもに討議、確認した内容

- 共同購入の供給高が計画比103.0%と達成しました。また、生活サポート事業は夕食弁当の配達に1月16日から始まり、51万6千円を計上しました。店舗は供給高計画比102.7%と10カ月連続で達成しました。
- 2011年度第2回総代懇談会について
- 2012年通常総代会に向けて
- 2012年度以降の組織運営について
- 震災支援活動の経過報告と今後のすめかた